

令和6年度 浜田市保育連盟保育部会職員研修(8/5)について

<食育、給食などで困っていること、悩んでいること、相談してみたいこと>

【マナーや姿勢、食生活について】

- ・箸への移行の仕方(年々遅くなっている)、箸・スプーンの持ち方、わかりやすい伝え方が知りたい。→箸は5、6歳で上手に使いえればよい
- ・咀嚼が難しい、噛まずに吸っている、噛まずに飲み込む子どもが多く、しっかり噛んで食べる方法(伝え方)。→手づかみの時期、大きさ(一口サイズに調整しているが、丸飲みにならないか)、かじり取りの経験→映像の中で
- ・“楽しく食べること”を優先すると、おしゃべりが盛んになり、姿勢もくずれて、食事に時間がかかってしまう。静かに落ち着いた雰囲気での食事の方がよいのか悩みます。→あれ、食事が全然減ってないねなど声掛けをする
- ・就学前に、知らせておいた方がよいことを具体的に知りたい。→まずは食に関心を持たせること
- ・食物アレルギーについて、今の治療の考え方や保育園での対応について。→本当に食物アレルギー児かを把握、かもね除去はだめ、全職員が危険性を知る、誤配、誤食がないシステム作り

【給食の食事について】

- ・離乳食期から、野菜が食べにくい子どもへは、どうしたらよいのか。→慌てない、とろみをつけるなどまずは食べやすいようにする
 - ・苦手・嫌いな食べ物(食材)を含め、いろいろな食材を食べる経験を大事にしたいと思っているが、どんな声かけ、どこまで援助したらよいのか。→無理強い絶対ダメ、映像の中で学んでください(苦手な食べ物を無理にでも一口食べさせるべきなのか。)
 - ・食に興味がなく食べるのに時間がかかる、食べる意欲がない子どもへの食事に対する対応の仕方→20分経ったら切り上げる、食べる意欲がない原因を探る、食材を作る体験などをする
 - ・偏食、少食だけでなく、よく食べる子への対応。(適正量の把握が難しくどこまで食べさせたら良いのか。)
 - ・給食の際、お腹が空いた子は早めに食べに行く(11:15~11:40までの間)自主性を取り入れたが、職員の配置、見守る目の不足から断念した。食の自主性において、どのような対応をされているか他園の実例など教えていただきたい。→以上児は、自主性に任せている、午前のおやつをやめた園もある
 - ・「主体性」とはどういう感じでしょうか。子どもが自ら“食べたい量(食べる量)”を決めることで、年齢に応じた栄養量(少ない量でも)は大丈夫か。→活動が活発ならOK
 - ・丸のみ、詰まらせるという点で、メニューやクッキング活動で出来なくなった献立や活動もあり、食育の幅も狭くなってきていると感じる。工夫も必要だが、止める方向になってしまい、これでいいのかなど悩む。
- 厚労省、内閣府のガイドラインに沿うことは重要

【家庭との連携について】

- ・離乳食が進まないという家庭からの相談に対するアドバイス。→楽しく食べることを優先する。素材から作ることを優先する。慌てない
 - ・食育について保護者と園が同じ意識をもって楽しんでいくためには、どのような取り組みが必要なのか。(何でも食べればよい、子どもが食べるものばかり、偏食や食べる量、朝ごはんの食べる量が少ないなど)
- 上と同じ回答、量は、食べさせたい量とのギャップ、朝早く起こしているか(食欲が出るまでに30分かかる)